

## 令和5年度 市長のタウンミーティング実施報告書（道下地区）

会場名	道下公民館	日時	10月30日(月) 19時00分 ～20時45分
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画部長、総務部長、産業建設部長、民生部長、教育委員会事務局長、情報広報課長、地域協働課 協働推進係長、情報広報課 広報広聴係長(司会)		
参加者数	48名	YOUTUBE 動画	視聴者数(最高時点) 13人 チャット(投稿数) 1件



### 1.市長講話

市長 村椿 晃「自治基本条例・各地域におけるコミュニティセンターについて」  
(20分程度 資料に基づき講話)

### 2.事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

#### ①豪雪時における高齢者宅の除雪支援体制について（支援体制づくりを市で検討してほしい） (村椿市長)

一つ目のポイントとして、まず前提としては除雪業者さん自身も手一杯の状況があります。その上で、ポイントの二つ目は、地域のお元気で体が動くような方が、その地域のために除雪をしていただけるための取組だろうと思います。議会でも本当に毎回よく質問をいただきます。どうやったらその地域で自分たちで除雪をするために小型除雪機などを充実させることなどについて検討しています。ご質問にあったように、自主防災組織に準じるような支援体制づくりを検討すべきというのは、その通りだというふうに思いますので、皆さんと話をしたいと思っています。

#### ②道下公民館にエレベーターの設置のお願い (村椿市長)

エレベーターの設置については、正直、難しい点があります。確かに3階まで上ってくるのは大変だと思います。不特定多数の人が集まる、こういった施設でエレベーターを作ろうとすると、相当、大きな費用がかかるのではないかと思います。金輪際無理と言うつもりはありませんが、利

ユーザーの皆さんの状況も踏まえて、検討していきたいと思います。

### ③空き家調査の活用について(空き家調査の結果をどう生かしていくのか)

(村椿市長)

この空き家調査の目的、簡単に言うと、持ち主、所有者の方にその管理の状況等について伝えるための調査だと思ってください。故郷を離れている方も多くおられ、どんな状況になっているかってを、持ち主の方にも知ってもらいたい。その上でどのような管理をしていただくかをお伝えしていきたいと考えています。ここがまずベースになります。

(産業建設部長)

毎年調査へのご協力をありがとうございます。令和3年度の調査では、市全体で1320件空き家がありました。令和4年は、1317軒、全体では減っていますが、解消されたものが125、新たに集まったものが122、トータルとして3軒の減という状況です。多いのが町部です。これが全体の4割。経田を含めると6割近くが、住宅密集のところにあります。一番問題なのは、空き家が歯抜けのようにあることです。例えば買おうと思っても、敷地の隣にお住まいなので壊せないものですから、面的に使えないことが課題だと捉えています。

毎年調査をして、このような問題を皆さんと共有していきたいと考えています。状態が悪い案件については法的手続きも取れます。道下地区でも指導結果解消された空き家もごございますし、空き家の利活用、空き家にならないためにどうするかというセミナーや相談会も開催しておりますので、引き続き、地域の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

### ④線状降水帯等がどこで発生するかわからない。河川・海岸護岸の整備促進、雨水幹線、老朽排水路の整備についてお伺いしたい。河川改修、ライフラインの耐震整備、土砂災害防止施設の整備、橋梁改修計画についてお伺いしたい。

(村椿市長)

集中豪雨などでどこがどんなふうになるかを知っていただくことが一つです。これがまず一番重要だと思っており、今年度から内水ハザードマップの作成に着手します。令和6年度の策定を目標にしています。また地域の皆さんと意見交換をお願いすることになると思いますので、よろしくお祈りします。そしてもう一つはハード的な対応であります。今まで、市内の河川を順番にいろいろ整備改修してきております。駅周辺の雨水幹線の排水の整備を、この後、令和7年度ぐらいから、しっかりやってくという予定で考えています。

それから、ライフラインの話で水道の話、水道管の話がありますが、魚津市の水道管は非常に老朽化しています。しかも耐震化されていない。富山県内全体の市町村、水道の耐震化率の平均が40%に対して、魚津市はまだ20%もっていないということで、令和10年度までに40%まで持ってくという目標を立てて整備をしています。そのために、何年か前に、水道料金を上げさせてもらいました。市民の皆さんに、毎年毎年、今の状況を、お伝えし、見えるようにしていきたいと思えます。

鴨川放水路についてお伝えしますが、平成10年の大雨があつて、富山県では抜本的な対応策として、鴨川放水路の事業化を決めて、平成13年度から本格的に工事がスタートしています。全体延長が2100メートルぐらいのうち、今までに整備済みが53.4%であります。平成13年度から、20年ぐらい以上かかって、ようやく半分ちょっとです。先日、国土交通省の方、それから富山県含めてスピードアップしていただきたいとお伝えしました。

⑤道下小学校、東部中学校の通学路の危険個所の改善対応について(用排水路の危険個所、東部中学校踏切等の安全対策についてお伺いしたい)

(村椿市長)

市長になって、2、3年目ぐらいに通学路の安全対策を徹底しようということと呼びかけて、通学安全プランを作って、危険箇所を見て直していこう話を進めてきました。

(教育委員会事務局長)

プランについては、平成29年に策定をしております。実際に平成30年度から教育委員会、学校、地元の皆様など関係者に通学路の危険箇所を合同で見えていただき、どのように対応するなどの話をしてくれています。今年度につきましても8月23日に合同点検を行いました。今現在、建設課等ですぐにできるものは進めております。市内全域で危険なところから改善していったるところであります。道下地区につきましても、5件の要望は出ております。調整中のものもありますが、来年度には繰り越さない予定で考えております。

⑥魚津警察署の移転問題についてお話しできる範囲でお伺いしたい。

(村椿市長)

県警察本部は県の東部と西部にそれぞれ5つある警察署を2つずつに統合する計画で、再編後の新しい警察署の建設候補地は、入善署、黒部署、魚津署を統合する警察署の候補地は、入善町の中央公園周辺、黒部市の総合公園周辺と国際文化センター「コラーレ」周辺、魚津市の総合体育館跡地です。高岡の方の警察署の統合が先に進んでおり候補地は大体決まったとのことで、用地取得なり整備をしていきますが、早くても令和9年、10年という話であり、こちらはその後となります。我々とすれば、魚津の総合体育館の場所は、高速、国道8号にも近いのでエリア的なアクセスを考えても、真ん中ではないかもしれませんがアクセス的には便利ですと伝えていきます。

3.意見交換(地区からの提言・提案等について)

○ 海洋ごみなどをボランティアで拾っているの、捨てる場所を確保してほしい。

(村椿市長)

悩ましい面も正直あり、設置すると管理の問題も出てきます。海岸のごみの回収について、いろいろな団体の皆さんだとか、あるいは市の事業としても組み込み、イベント的にはやっています。それを、どう充実させるかが課題だと思うので、また皆さんとも話をして、考えていきたいというふうに思います。

○ まちづくり委員会で空き家について議論をしてきた。1人暮らしの方の情報を自治会長が手にするのは難しい。社会福祉課と都市計画課が連携して、一歩進んで対応を、その方々が元気なうちにヒアリングできればと考えている。地区としても高齢者向けの悩み事相談会などをやっていきたい。

(村椿市長)

即答はできませんが、まちづくり委員会の皆さんから提案をいただければ、話し合う余地はあると思います。

(産業建設部長)

どんどん地域に入って行って、相談会なり、場合によっては専門家の皆さん、要は相続の話も含

めて、いろいろなセミナーを開催したいと思っています。対象の方を絞り込むことが非常に難しいので、全員呼びかける形で、より多くの方に参加していただくのがいいのかなというふうに思います。ご提案いただいて、社会福祉課と連携して、そういう方々に、そういうチラシを配ったりすることも可能でございますので、そういった取り組みをぜひやっていきたい。

(民生部長)

今のご意見は、心から賛同したいと思っています。今ほどの個人情報のお話は、確かに民生委員には守秘義務があり周囲の秘密は守らなければならないことになっておりますけれども、本人の同意があれば、情報提供も可能ということですので、今ほどの空き家の問題について広くまず知っていただいて、そういった中で、民生委員さんの訪問の中で、話の糸口をつくった上で、このことを困っておられるから、例えば自治会長さんにお知らせしてもいいですかという感じで、同意を取った上で提供することは可能だと思います。一つ一つ個別にやっていくことは大変なことだと思いますが、連携を取りながら、どういった方向で、より空き家の予防が進むのか、これは皆様の協力が是非とも必要だと思っておりますので、考えさせていただきたいと思います。

### ○ 小川田住宅の跡地について

(村椿市長)

我々もあそこをどう生かしたらいいだろうかということ、ある意味自由に今話をしています。例えば小川住宅は市有地ですが、もし議会をはじめ皆様のご賛同があるのであれば、若者向けに安い住宅地として使ってもらおうというアピールをすることは可能です。ただ、それは不公平、といった話になると、なかなかうまくいきません。一つは人口減対策、子育て世代に住んでもらう、そういったミニタウンをつくるようなコンセプトでやっていくのが一つあります。あるいはそうでなくて、海にも近いですし、ロケーションもいいので、違う事業を展開することも考えられます。ぜひ有効に使いたいというふうに思っていますので、またご意見アイデアをください。

### ○ 空き家の利活用(民宿を経営して、まずは住んでもらう)

(村椿市長)

現在、市営住宅の空き部屋を利用してお試し住宅をやっています。今年度、実際に使ってもらっています。また、県内の事例でいうと、上市町さんが0円空き家ということで、一定の条件に合った空き家なんですけれど、それを基本的には入居者負担コストを限りなくゼロに近づけて、利用しやすくするという取り組みをしていて、非常に人気です。我々もいいものは真似していきたいと勉強しているところです。

### ○ コミュニティセンターの収益事業について(立ち上げの相談や資金について)

(村椿市長)

立ち上げ時の相談は、市役所の地域協働課の方に相談してください。その上で、活動内容によっては、関係するセクションの職員も一緒に対応していきます。ですから、もうどんどん相談をしてください。それから、立ち上げ時の支援制度については考える必要があると思っています。例えば片貝のコミュニティセンターシェルピースが宿泊できるような施設にするときは、農林水産省の補助金を活用して、市も応援して、お風呂を作ったりといった応援をしました。分野によっては、活用できる補助金、補助制度もあります。なければ、一般的な地方創生のお金もあります。ですから、プランによってどこまでどういうふうに応援できるかは変わってきますが、その必要があるというふうに思っています。

○ 新しいプールの駐車場について(駐車場がピーク時には足りないと思う。用地買収などの考えはあるのか)

(村椿市長)

いろいろ土地はあると思って見てはおりますが、実際どこを想定して、駐車場対策を考えるかというところも正直あります。今のままで何とかやりくりして大丈夫ですというつもりはありません。利便性を考えたときに、少しでも拡張できないかという思いは正直あるんで、これからまた考えていきたいというふうに思っています。すぐにそこを取得するとか、その話まではまだいかないわけでありまして。